

**うべ ECO チャレンジ (えーこっちゃ)**  
**[宇部市地球温暖化対策実行計画 (事務事業編)]**  
**令和4年度の取組結果**

**1 新しい算定方式による温室効果ガスの排出量の結果**

	令和3年度	令和4年度	発生源
CO2(二酸化炭素) (エネルギー起源)	19,572	20,323	燃料の燃焼、電気の使用
CO2(二酸化炭素) (非エネルギー起源)	14,245	16,749	廃プラスチック類の焼却
CH4 (メタン)	490	455	下水の処理、浄化槽による処理、ごみの焼却、自動車の走行
N2O (一酸化二窒素)	1,847	1,776	ボイラー、ディーゼル機関による燃焼、自動車の走行
HFC (ハイドロフルオロカーボン)	6	5	カーエアコンの搭載台数
合計	36,160	39,307	

(t-CO2)

結果

8.7% 増加

**電気使用量とCO2排出係数及びCO2排出量の年度比較**

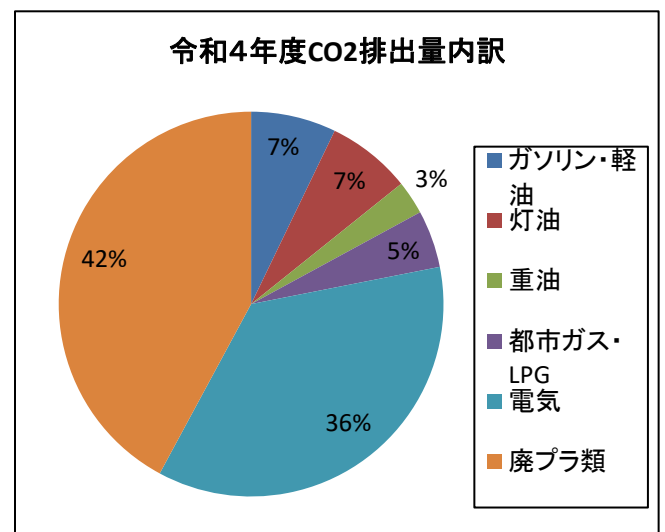
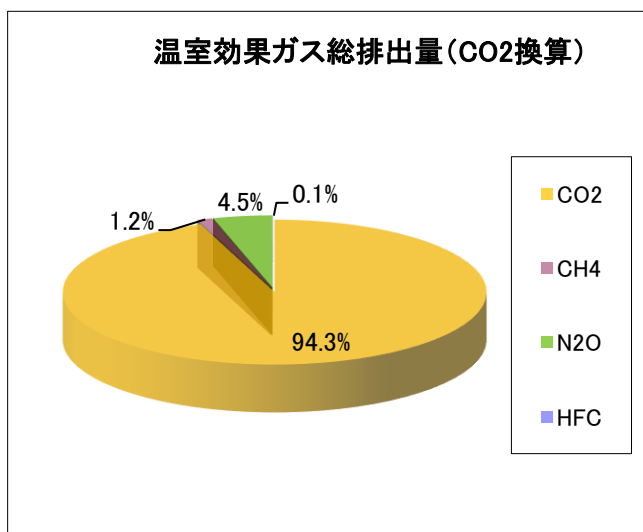
		中国電力(株)	うべ未来エネルギー(株)	(株)ESS	丸紅新電力(株)	計
電気 使用量 (kWh)	令和3年度	19,363,532	11,036,340	527,192	322,522	31,249,586
	令和4年度	19,348,691	10,261,979	541,792	374,740	30,527,202
算定に使用した CO2基礎 排出係数 (t-CO2 /kWh)	令和3年度	0.000531	0.000134	0.000538	0.000379	
	令和4年度	0.000529	0.000297	0.000453	0.000464	
CO2 排出量 (t-CO2)	令和3年度	10,282	1,479	284	122	12,167
	令和4年度	10,235	3,048	245	174	13,703
	令和3年度 -令和4年度	47	-1,569	38	-52	-1,536

**【分析結果】**

令和3年度と比較すると、エネルギー起源、非エネルギー起源ともに二酸化炭素の排出量が増加しており、エネルギー温室効果ガス排出量は8.7%増加した。エネルギー起源においては、全電気使用量の約34%を占めるうべ未来エネルギー(株)との電力契約で、電気の使用量は減少しているものの、排出係数が高くなったことで排出量が倍増したことが要因である。なお、エネルギー使用量は、グリーン購入率を除く各集計項目10項目のうち、ガソリン、軽油を除く8項目が前年度と比べて減少している。

また、非エネルギー起源においては、焼却場で焼却される一般廃棄物に含まれる廃プラスチック類の割合が前年度より高くなったことで、排出量が大幅に増加している。

引き続き、温室効果ガス排出量の削減に全庁挙げて取り組む必要があることから、貴部等内の環境マネージャーに周知するとともに、各課等業務及び所管する施設の状況を十分に検証のうえ、適切なエネルギーの使用に努める必要がある。



本市の事務事業における温室効果ガス排出量の94.3%を占めるCO2の組成を見ると、一般廃棄物に含まれる廃プラスチック類の焼却によるものと他人から供給された電気の使用によるものが大きな割合を占めている。CO2排出量削減のためには、各公共施設において、省エネに向けた設備更新や運用対策などの取組の実施が必要不可欠である。

## 2 温室効果ガス削減のための取組の結果

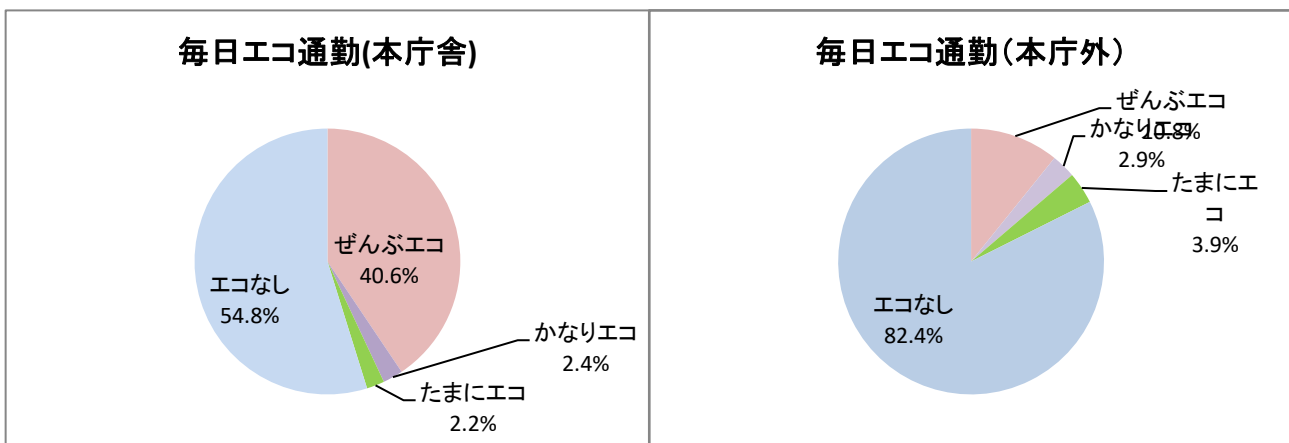
年間を通じて、エネルギー使用量等が減少した施設が多く、グリーン購入率を除く10項目のうち8項目で削減となった。

目標番号	項目	分類	令和3年度	令和4年度	削減率	取組状況
①	グリーン購入率 (%)	市全体	99.9%	99.5%	-0.4%	各課で概ねグリーン購入を実施できているが、自動車や外注印刷等のグリーン購入の適合が難しい項目があるほか、求める機能や品質から適合品の調達が困難なケースがある。
②	コピー用紙 (千枚)	市全体	29,659	27,734	6.5%	新たな制度・サービスの周知等で増加している課があるものの、全体の64.3%の課等で使用量が削減されており、前年度と比べて6.5%の削減となった。
③	燃やせるごみの総排出量 (t)	オフィス	15.9	8.8	44.7%	庁舎移転に伴う文書廃棄が終了したことで、44.7%の削減となった。
④	ガソリン使用量 (kl)	市全体	107.6	108.6	-0.9%	施設使用量は機器の適正な使用等により15.1%減少したが、公用車使用量は共用車稼働率の増加等により1.8%増加し、全体で0.9%の増加となった。
⑤	軽油使用量 (kl)	市全体	840.4	842.1	-0.2%	全体の使用量の92.5%を占める交通局において、コロナ禍からの回復傾向により、貸切バスの利用が増加したことから、軽油使用量が2.5%増加し、全体で0.2%の増加となった。
⑥	重油使用量 (kl)	市全体	353.7	353.0	0.2%	リサイクルプラザにおいて、焼却場の基幹的設備改良工事に伴う防爆用蒸気供給停止により、蒸気を発生するボイラを稼働させたことで増加したものの、ポンプ場においては、降雨の影響が少なかったことで雨水ポンプの使用が減少したことにより、全体では0.2%の削減となった。
⑦	灯油使用量 (kl)	市全体	963.4	733.6	23.9%	焼却場における基幹的設備改良工事の進捗に伴い、設備の故障発生頻度が低下するとともに焼却炉へのごみ供給が安定し、かつ適切な運転管理が行えたことにより、全体で23.9%の削減となった。
⑧	都市ガス使用量 (千m <sup>3</sup> )	市全体	441.4	393.8	10.8%	渡辺翁記念会館の利用がコロナ禍からの回復により増加したものの、本庁舎移転に伴う使用量の減少や、小中学校において、空調を適切に使用できたことにより、全体で10.8%の削減となった。
⑨	LPガス使用量 (千m <sup>3</sup> )	市全体	84.7	84.6	0.1%	コロナによる制限の緩和に伴い施設等の使用が増加したものの、給食センターで機器の効率的な運転ができたことなどにより0.1%の削減となった。
⑩	電気使用量 (千kWh)	市全体	31,249.6	30,527.2	2.3%	焼却場において、基幹的設備改良工事に伴い発電設備を停止したことから買電量が増加したものの、ポンプ場での降雨少による電動雨水ポンプの運転機会が減少したことや新庁舎移転に伴い使用量が減少したことで、2.3%の削減となった。
⑪	水道使用量 (千m <sup>3</sup> )	市全体	453.6	419.3	7.6%	宇部テクノパークにおいて、汚泥量が減少したことで、ポンプ保護のための汚泥希釈の使用がなくなったことや、小中学校において漏水工事が完了したことにより、全体で7.6%の削減となった。

【エコ通勤基準】

通勤距離が5キロ以内、または利便性の高いバス路線のバス停やJR路線の駅から1キロ以内に住居がある。

目標番号	項目	その他①	毎日エコ通勤					実施率 令和4年度	実施率 令和3年度	取り組み状況
			エコ通勤実施率	エコ通勤 該当	エコ通勤 非該当	計	計			
本庁舎	区分		エコ通勤実施率	エコ通勤 該当	エコ通勤 非該当	計			エコ通勤実施率100%の割合が減り、0%の割合が増えている。	
	ぜんぶエコ		100%	263	19	282	40.6%	43.4%		
	かなりエコ		50%以上100%未満	13	4	17	2.4%	1.9%		
	たまにエコ		50%未満	11	4	15	2.2%	2.4%		
	エコなし		0%	206	175	381	54.8%	52.2%		
			計	493	202	695				
本庁外	区分		エコ通勤実施率	エコ通勤 該当	エコ通勤 非該当	計	実施率 令和4年度	実施率 令和3年度	エコ通勤実施率100%が減り、それ以外の割合が増えている。	
	ぜんぶエコ		100%	71	10	81	10.8%	13.0%		
	かなりエコ		50%以上100%未満	17	5	22	2.9%	2.8%		
	たまにエコ		50%未満	16	13	29	3.9%	3.1%		
	エコなし		0%	254	364	618	82.4%	81.1%		
			計	358	392	750				



目標番号	項目	その他②	エコ通勤デー				取組状況
			通勤者数	実行者数	実施率 令和4年度	実施率 令和3年度	
	区分						
	本庁舎		667	288	43.2%	45.6%	本庁舎、本庁外ともに実施率が前年度より減少となった。コロナ禍にあって、感染防止対策の観点からは、公共交通機関の利用促進よりマイカー通勤が優先される状況にある。
	本庁外		677	102	15.1%	15.5%	
	R4計		1,344	390	29.0%	28.8%	

※「その他②」の人数は、「その他①」の人数とは算出方法が異なるため、合致しない。

